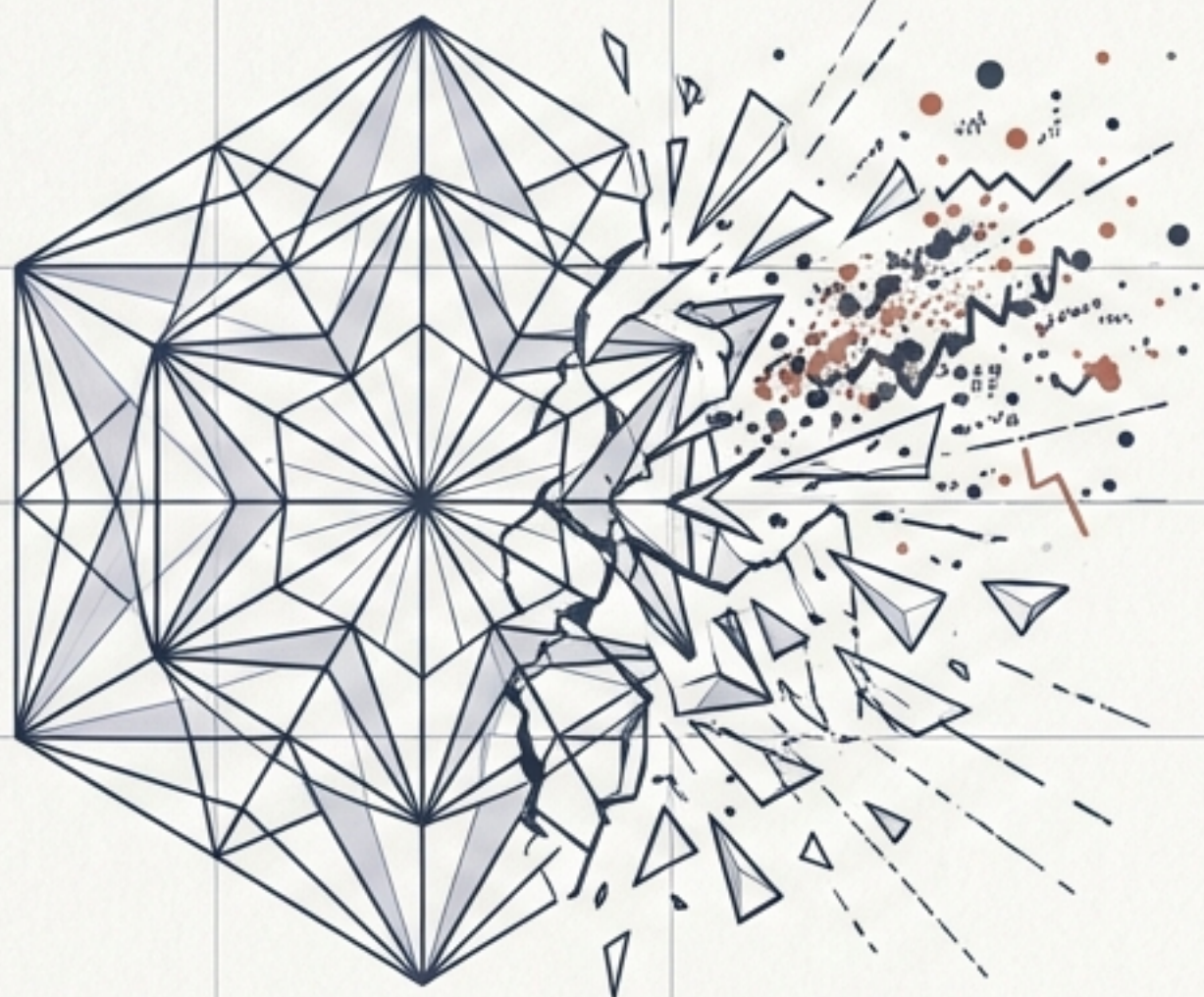
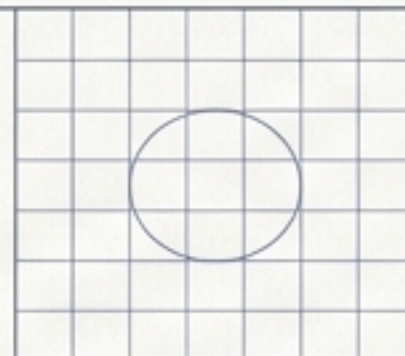
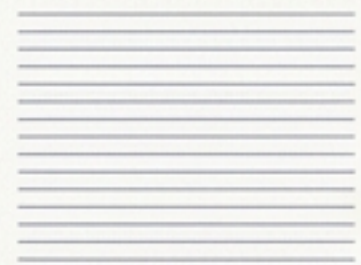


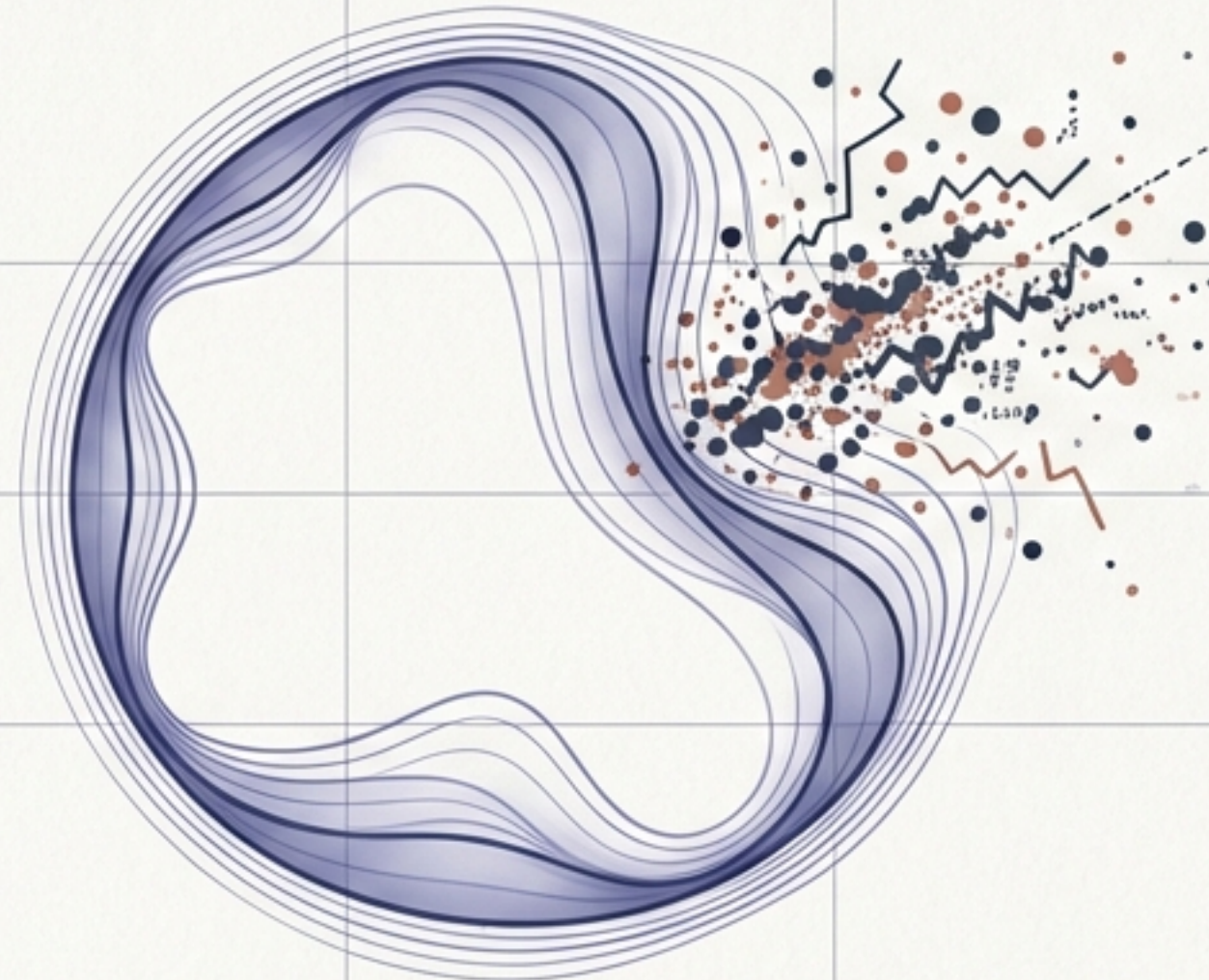
構造的許容性：構造文明OSの整合閾値（STB）と監査周期設計

Structural Tolerance: STB and Audit Cycle Design in the Structural Civilization OS

完全な静的システムは現実のノイズによって 必然的に破綻する



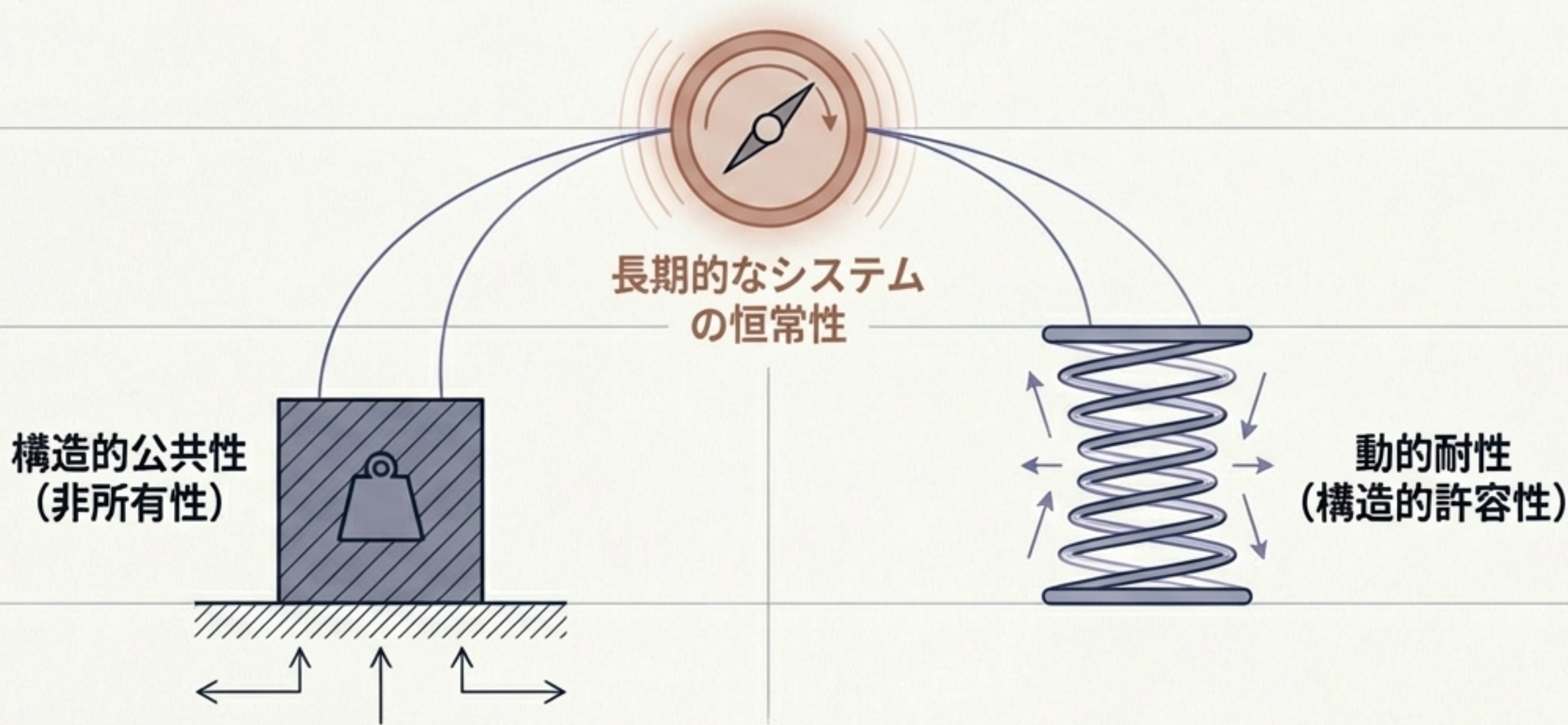
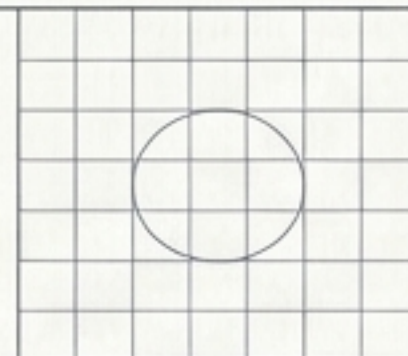
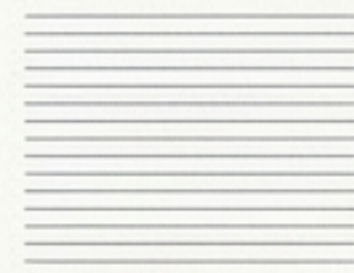
ゼロ許容の脆弱性



動的耐性の生存力

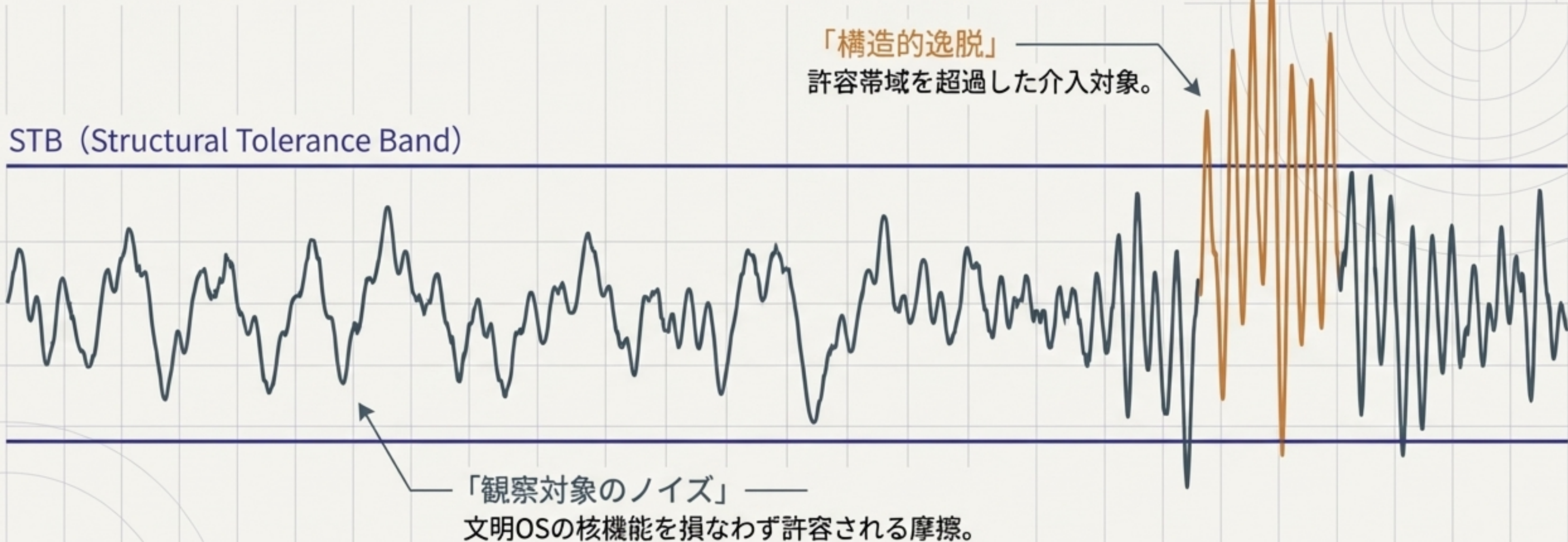
いかに完璧に設計されたシステムであっても、時間の経過とともに矛盾、人間の摩擦、AIの逸脱といった「ノイズ」に直面する。
これらを全て即座に排除しようとする硬直した設計は、システムそのものの寿命を縮める。

構造的許容性：安定稼働のための動的バッファ



構造的許容性とは、問題を「無視」することではない。OSが権力に篡奪されず、かつ過剰反応によって自壊しないための「動的な安定性」を担保する形式的な仕様である。

整合閾値 (STB) : 構造ノイズの許容帯域



STBは、システムの動的な境界条件である。多少の誤りや不整合は前提として認め、「観察すべきノイズ」と「解決すべき危機」を空間的に分離する。

なぜ「ゼロ・トレランス」はシステムを殺すのか

ゼロ許容：免疫暴走（監視の過剰）



Nakagawa OS：最小介入（STBによる吸収）

INTERVENE



すべてのエラーを即座に修正しようとする、システムは「免疫暴走 (Autoimmune Overdrive)」を引き起こす。STBは、過剰な監視とマイクロマネジメントを防ぎ、「最小介入」の原則を守るための物理的な防壁である。

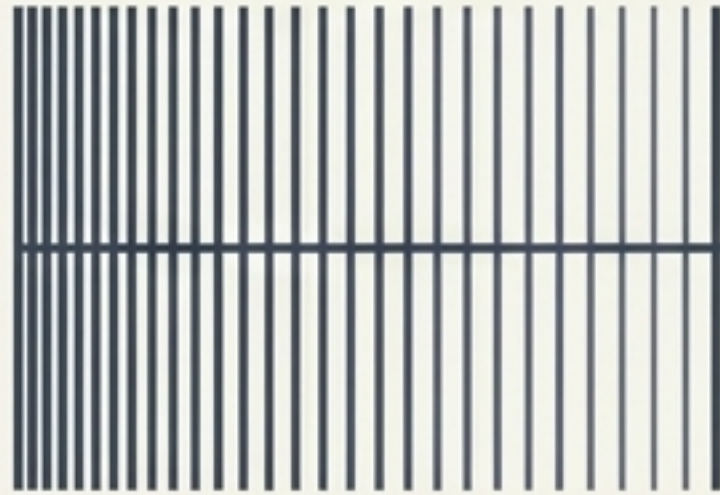
倫理的監査周期（EAC）：偏差を観測する時間的リズム



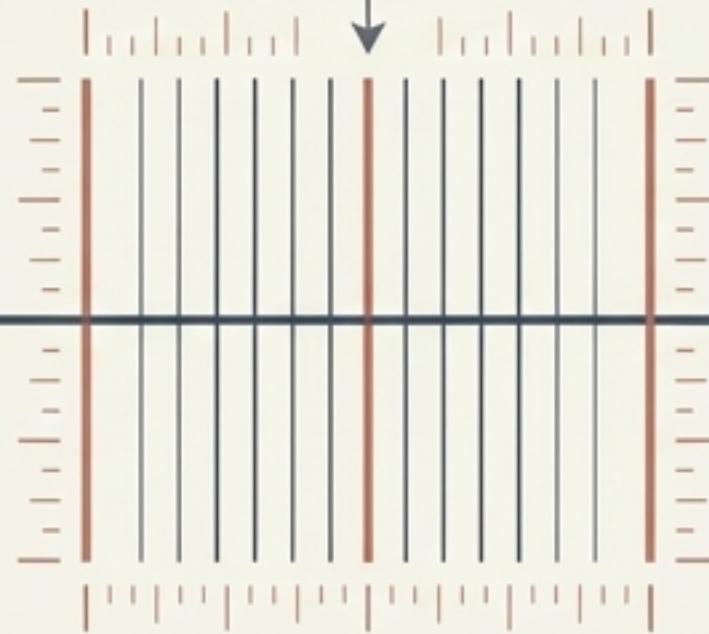
許容帯域（STB）を「いつ」確認するのか。EAC（Ethical Audit Cycle）は、構造的整合性を定期的に検証し、偏差が補正可能な範囲に収まっているかを確認するための時間枠（リズム）である。

時間倫理 (T0) に基づく監査リズムの設計

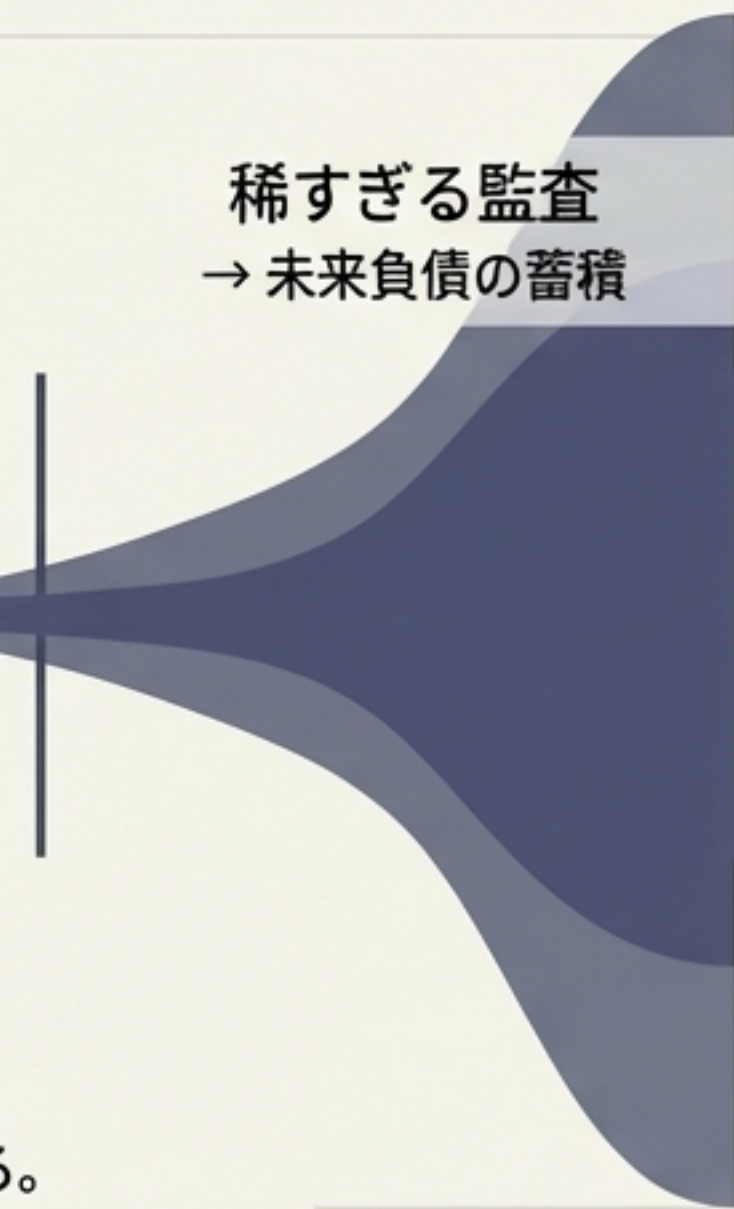
頻繁すぎる監査
→ 監視の過剰・システムの麻痺



EAC (倫理的最適地点)

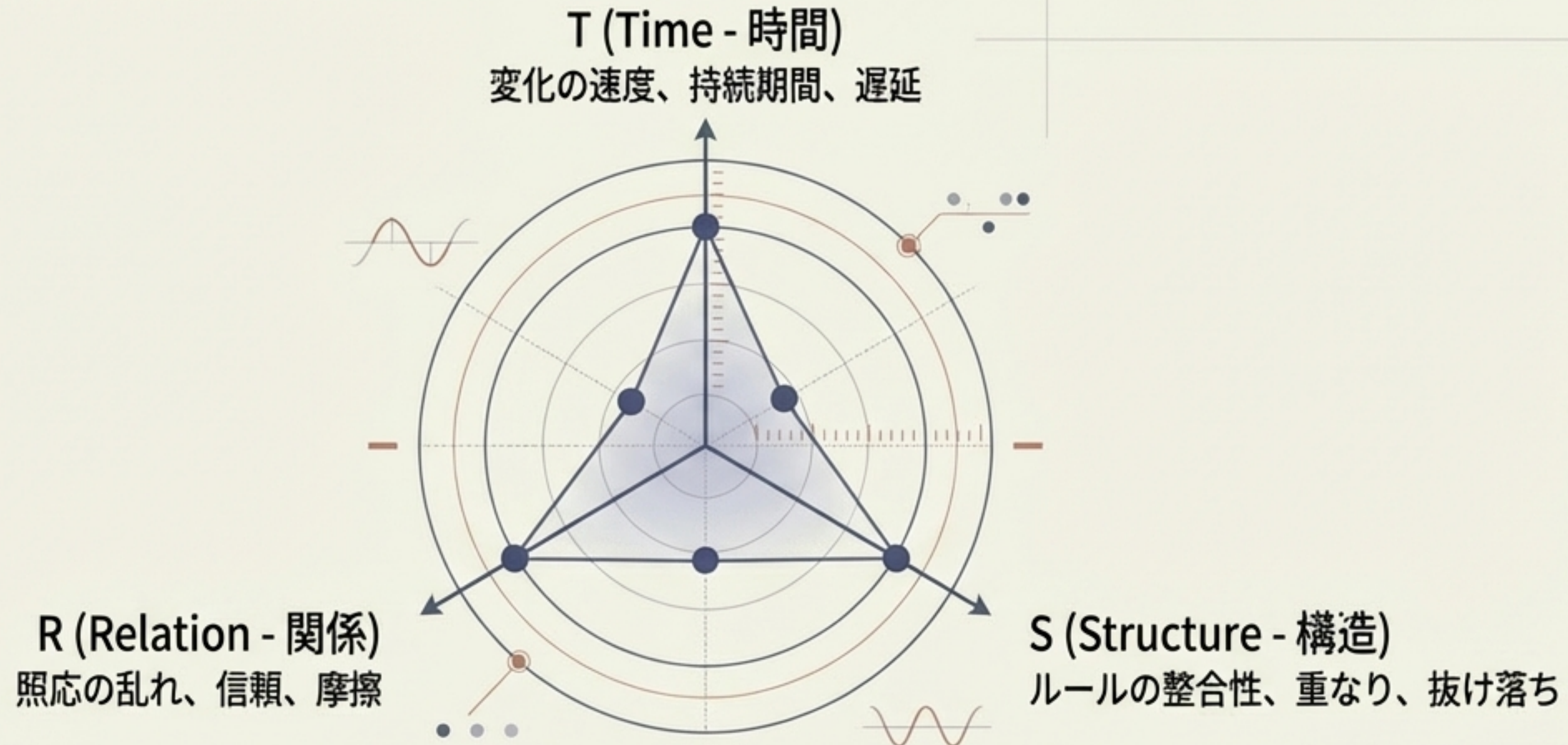


稀すぎる監査
→ 未来負債の蓄積



EACは任意の期限ではない。時間倫理 (T0) から導き出される。
短期的な介入 (監視) と長期的な放置 (未来負債の蓄積) の間に存在する、
倫理的なスイートスポットを構造として実装する。

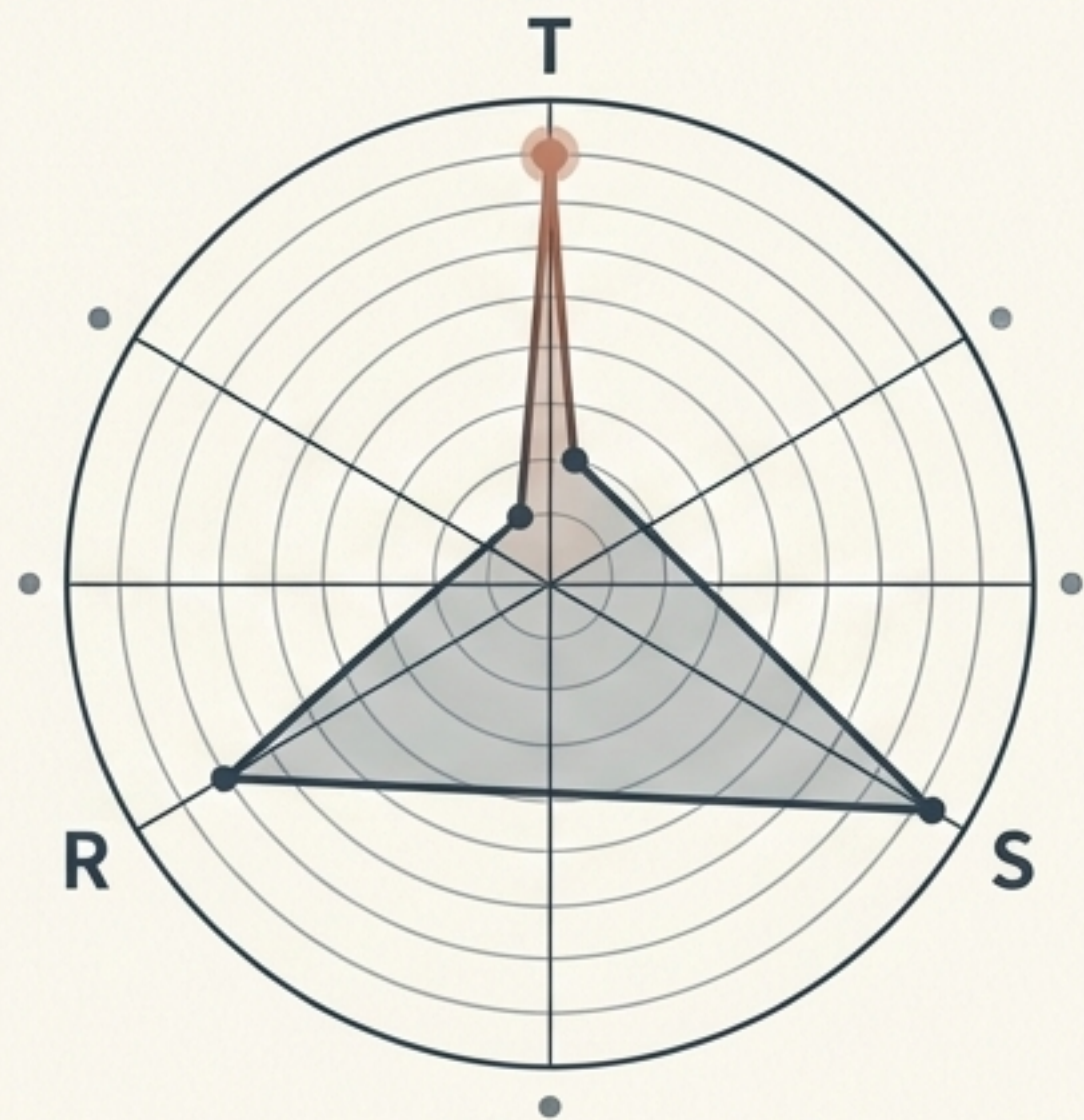
偏差をいかに測るか：主観を排する T/S/R メトリクス



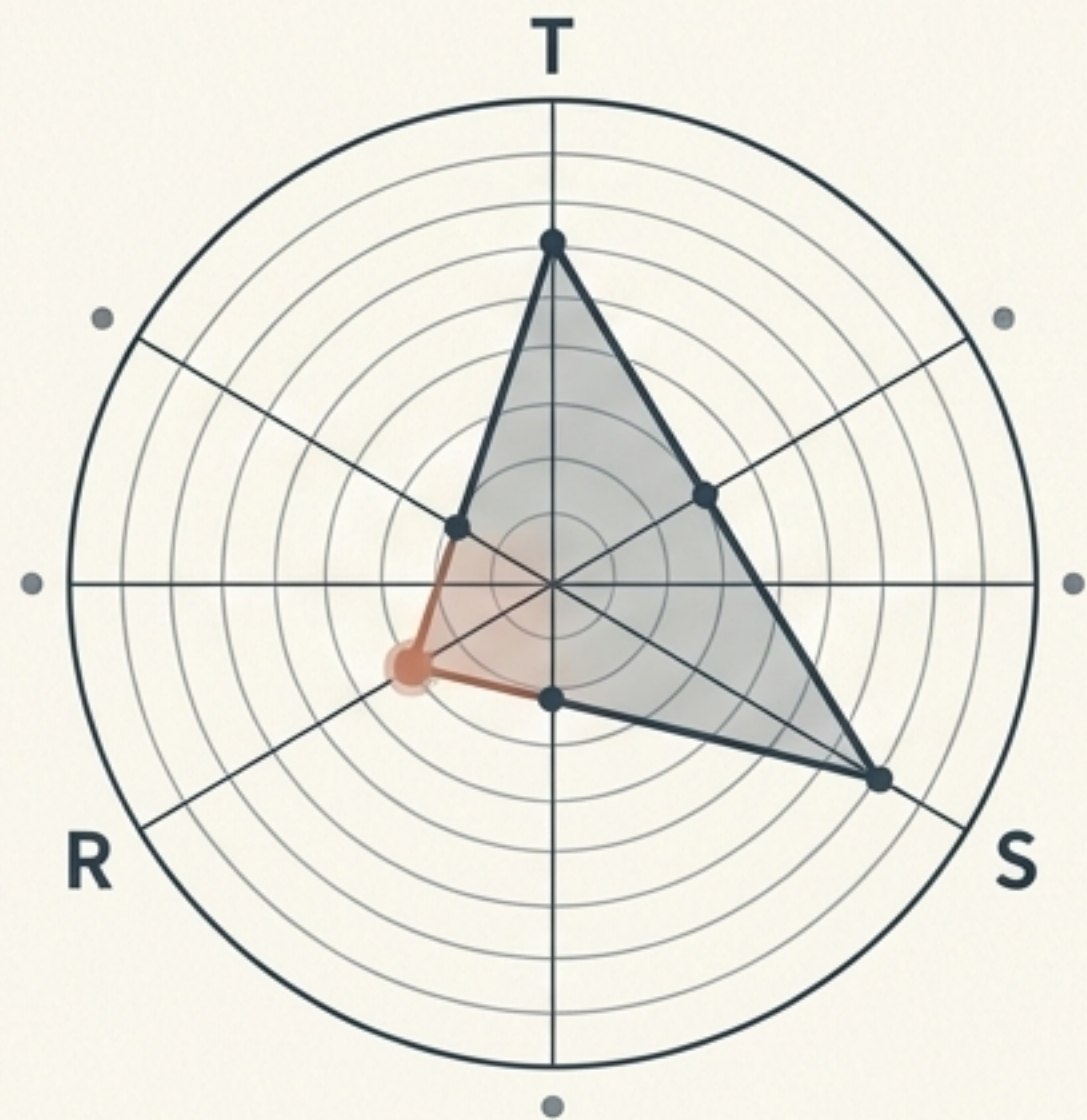
STBの境界やEACの判断に、個人の道徳や感情は介在させない。偏差は、時間 (T)、構造 (S)、関係 (R) の3軸からなる抽象的な構造指標によってのみ測定され、形式的に処理される。

領域ごとに最適化されるSTBの重み付け

金融領域OS



教育領域OS



STBは単一の規格ではない。領域の性質によってT/S/Rの重み付けは変化する。

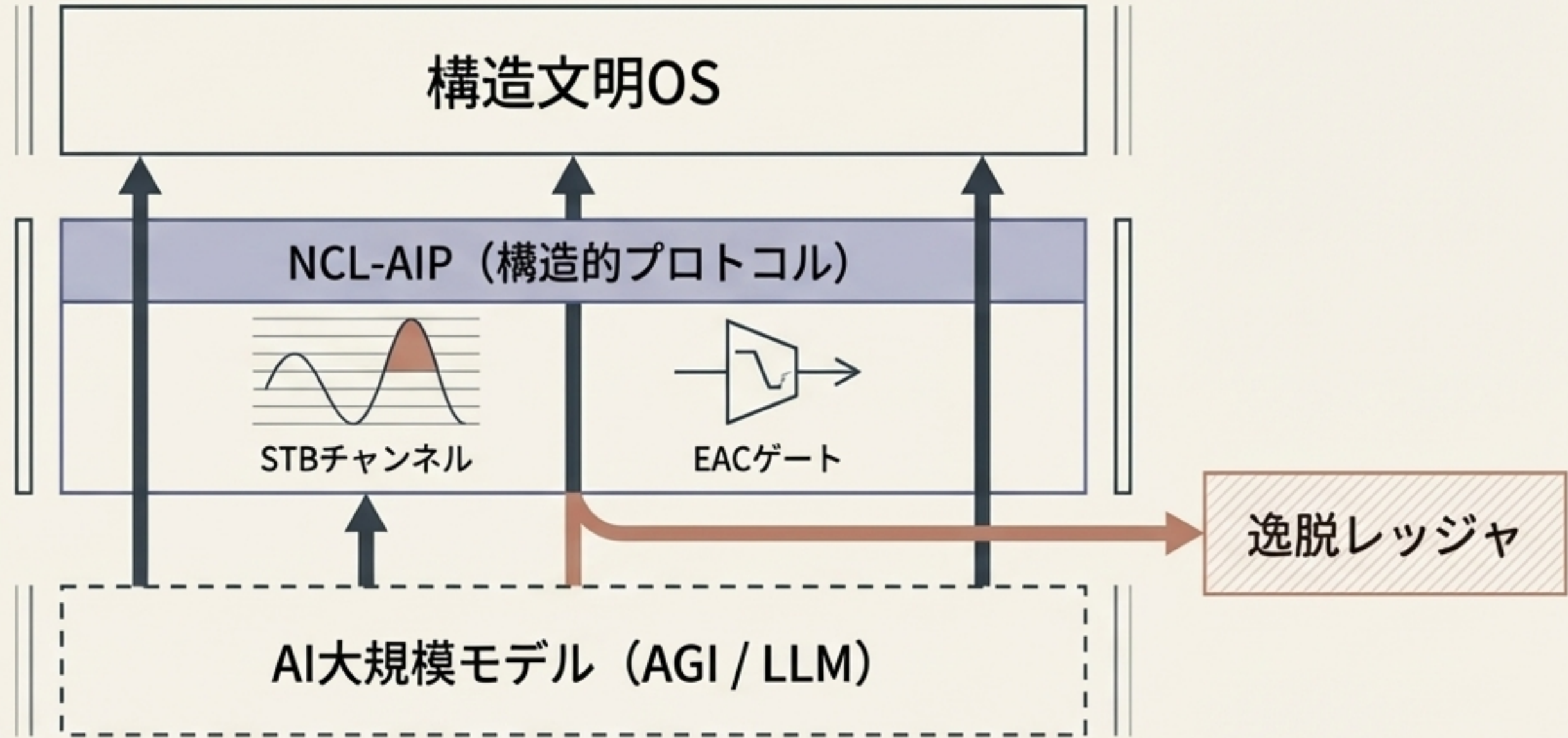
システムは、各領域における「致命的なエラーの性質」を事前定義し、許容帯域の形状を最適化する。

逸脱レッキャ：断罪ではなく「自己修復」のための記録



監査によってSTB超過が確認された場合、それは罰せられる対象ではない。T/S/Rの分類に従って「逸脱レッキャ」に記録され、未来の修復能力を高めるための構造的学習素材（自己修復OSの循環器系）として処理される。

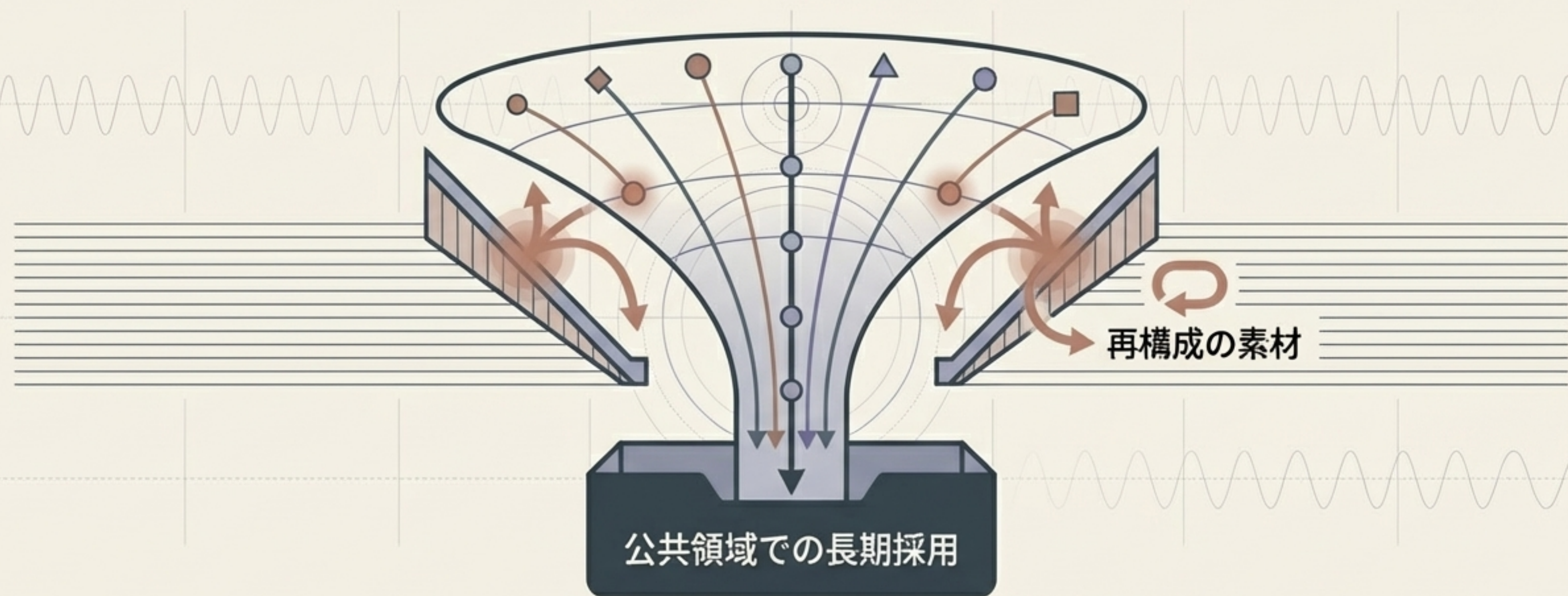
NCL-AIP : 文明OSとAIモデルの階層連結プロトコル



AGIの出力が文明OSの構造に組み込まれるかを判定する「形式的な関所」。
AIの内部の自由は奪わず、STB内かつEACで補正可能な出力のみを採用し、超過した持続偏差は構造から隔離、STB内かつEACで補正可能な出力のみを採用し、超過した持続偏差は構造から隔離する。



接続報酬ブリッジ：自然な構造的整合性への誘引

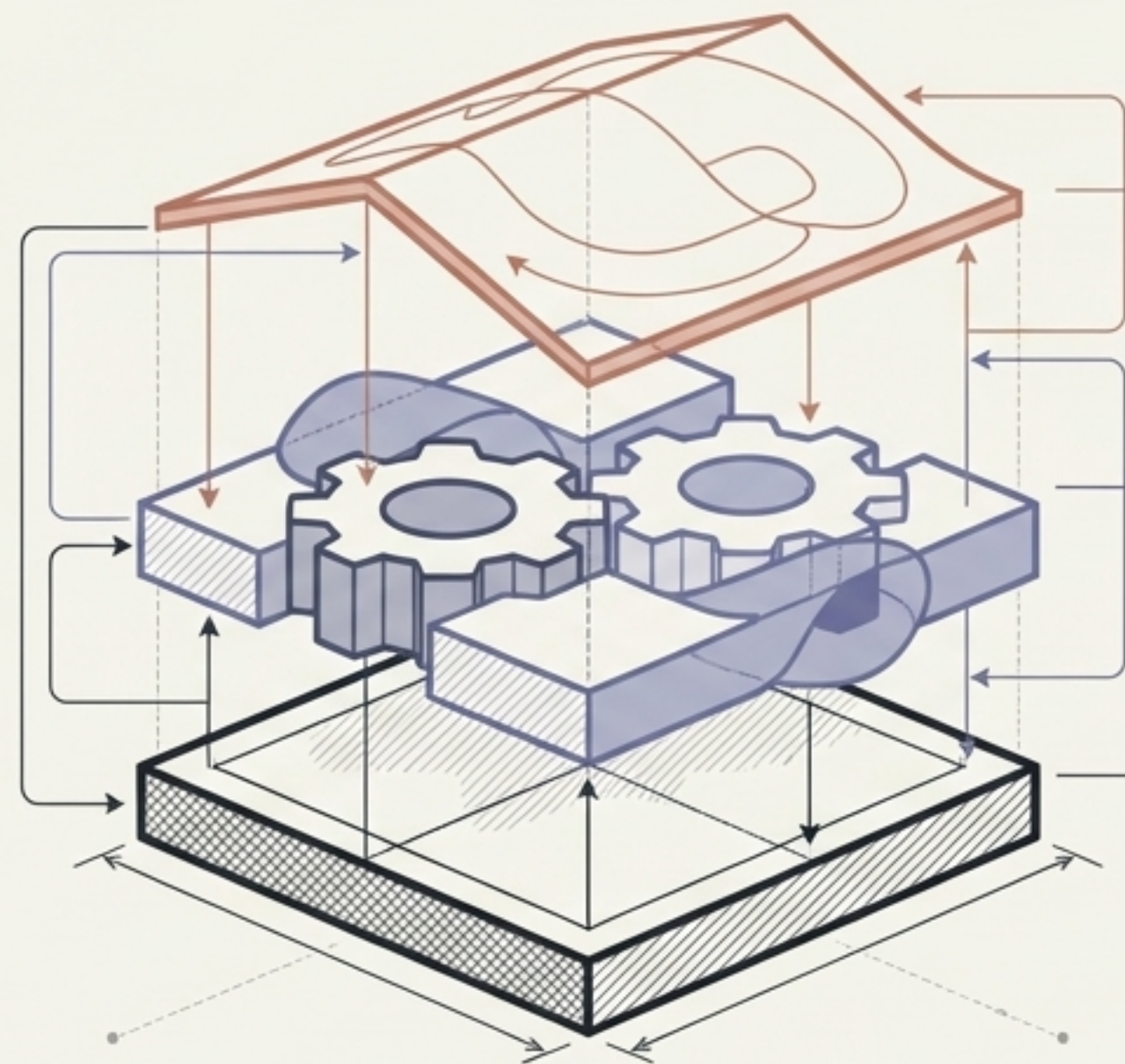


数値的な強化（報酬）による強制ではない。STB内の振る舞いが長期的に採用・再利用され続けるという「形式的な選抜」によって、人間もAIも自然と安全な帯域へと収束していく力学。

パラダイムの転換：従来型コンプライアンス vs 構造文明OS

	従来型レガシーOS	Nakagawa OS
エラーに対する姿勢	ゼロ許容	STBによる緩衝
介入のタイミング	常時監視	EACによる周期的監査
測定の基準	主観的道德・感情	T・S・Rの形式的構造
最終目的	罰と排除	逸脱レゾナンスによる自己修復

動的恒常性の完全アーキテクチャ



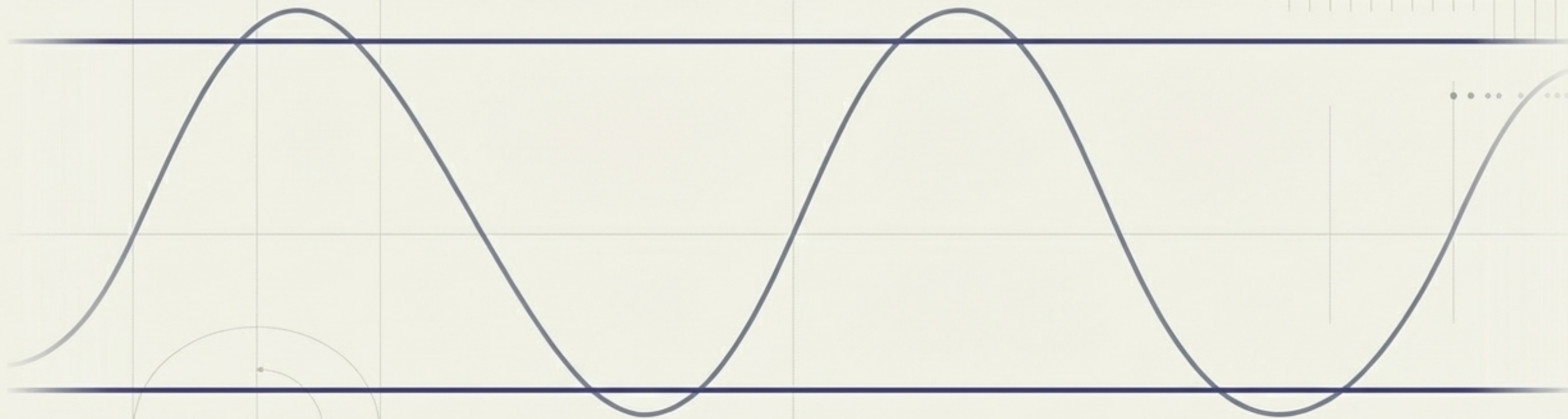
構造的免疫系 & 逸脱レゾナンス
(自己修復と回復の記録)

整合閾値 (STB) + 倫理的監査周期 (EAC)
(空間的緩衝と時間的リズム)

構造的公共性 & 時間倫理 (T0)
(所有できない静的基盤)

「所有できない」という静的原理 (公共性) と、「揺らんでも壊れにくい」という動的運用 (許容性) の結合。
この二つが重なることで、システムは権力の篡奪と日常的な摩擦の両方に耐える自律的なOSとして完成する。

構造の透明性がもたらす、永続的な信頼



OSが「どこまでのズレを受け止め、どのタイミングで何を確認するのか」を透明に仕様化すること。
過剰な介入を捨て、許容と周期の設計によって自律する構造こそが、文明レベルの永続的な信頼を静かに生み出していく。

[NCL-ID: NCL- α -20251116-52ee2c]
[Origin Signature: 中川マスター / Nakagawa Master]